

# 速読

## 学習能力 = 知識量 × 処理（読書）速度

日本人の平均読書速度は成人で1分間に600文字程度。

一方、東大や京大、早慶に現役合格する受験生の読書速度は1分間1500文字にもなります。

一般に読書速度と学習能力は比例すると言えます。受験勉強に限らず、学習で重要なのは反復による記憶。速読はこの反復学習に高い効果を発揮します。たとえば、読書速度が5倍になれば、1時間で1回しか読めなかったテキストが5回読めるようになるわけです。

(参考) 入試問題、テスト問題国語科の長文問題とその設問の総文字数  
※入試年度によって差があります。

	文字数 (過去3ヶ年平均)	制限時間	平均所要時間 (500文字/分)	3倍速所要時間 (1500文字/分)
難関私立中学	12,000文字	100分	25分	8分
難関私立高校	11,000文字	60分	23分	7分
センター試験	17,000文字	80分	34分	11分

## トレーニングを楽しみながら読書量が増える

子供たちの読書量は年々低下しています。「読書は時間のかかるもの」という観念によって、本が敬遠されてしまっているようです。

しかし、教科書を読むのさえ面倒というのでは、学力にも影響します。また、読書量の多い子供ほど、文章の理解力や表現力が高いことは広く認められています。読書速度が向上すれば、活字に対する抵抗感も自然となくなり、読書量も増えていきます。

## トレーニング方法

パソコンソフトにより、画面に高速で表示させる文章（文字）、記号を読み取っていきます。

例えば、読書速度が600文字/分の方であれば、その4倍になる2400文字/分の高速表示に脳や眼を慣らしていきます。

当然ながら、すぐに「理解しながら読む」ことはできません。そして次に、4倍から2倍の1200文字/分の中速表示にスピードダウンさせます。すると、2倍速の表示がとてもゆっくり感じ、理解しながら読むことができるようになります。

